

*昭和59年10月に、長船（旧姓：大島）みよさんと高橋（旧姓：横畠）綾子さんに聞き取りした原稿を編集したものです。原文は、質問に答える形式ですが、質問部分を省き、2人の話し言葉を「でした・ました」に変えています。

*長船みよさんは、大正9年3月に常呂尋常高等小学校卒業

*高橋綾子さんは、大正11年3月に常呂尋常小学校卒業

長船：私らがここ（注：現在の末広のこと）に入った時は、今の国保病院の前に北野さんと小松沢さん、吉田さんという役場の人、それから横畠さん、それから国保病院のところ常呂病院がありました。役場は今と同じ場所にありましたが、そこまで家は全然ありませんでした。

そこいらに排水があって、私の家は埋め立てして建てたものです。土橋（注：表面を土で覆い被せた橋）も家から小松沢さんの近くまでありました。小学校の裏からずっと川でした。学校からの帰りには土橋の下でかくれんぼをしたりしました。川は自然と埋まり、今は古川となって何もありません。

高橋：本当に2、3件しかなかったですね。そして川は跡形もなくなっていました。

*注：常呂病院は、准公設常呂病院として大正2年に新築、隔離病棟を併設
村医は佐川直徳